

前進

革命家をたたえる

圧制のくびきがしめつけてくると、
 ひとびとの勇氣はそがれる。
 が、かれの勇氣はたかまる。
 沈黙の穀が厚いところで、
 かれは発言する。
 圧制が支配し、運命が語れるところで、
 かれは名を名ざす。
 かれを追放すれば、
 かれの赴く土地に暴動がひろがり
 かれの消えた土地には、
 なお、不穏の火は消えぬ

アレヒト作

今、われわれにとって「前衛」とは――	2
さらなる コミュニンの飛翔を	5
雪深き赤棠より ―そのに―	8
欲望の解放に向けて発想の転換を	9
共学の試み オールコムン学校開く	12
手探りのムラ	14

49. 2. 19.

No. 17

発行：大阪市東成区玉津二丁目、東成玉津郵便局留 コミュニ百人委員会
 郵便振替：大阪79064

ここにひとつの試みがある。
忘れ去られたようなちっぽけな村を
そこに住む人によって守られ
そこに住む人によって築かれ
そこに住む人によって貫かれる
屈服も差別も犯罪も何ひとつない
新しい価値観に支えられた
「コミュニティ」に作りかえようとする
そんな試みがある。

暖かい微笑を交す人々と
精一杯汗を流し 土を起す
喜びに満ちた労働と
そして、このぬけるような青空
その中で、築きあげようとする
伝達の試みがある。

そして 今
試みは 現実となり
伝達の段階に我がろうとする。

長い歴史の上に腰をすえ続けに村が
今、福かに動け始めて
君よ、来てみなりか！ 俺達の村へ。

1974年 春—春—春—



始まる 始まる 何が？
はるのフューチャーズ
いつもの君、いつもの行動、

そのマフネリを打ち破れ！！

※ 弥栄は、その場を君に提供する※

【やること】 開墾、水路作り、追肥作り…

Ⅰ期: 3月16日～3月25日

Ⅱ期: 3月26日～4月10日

(原則として 2週間参加を 希望します)

…まだまだ たくさんありますよ、女の子もデキルノデアリマス。

【連絡先】 コミュニ百人委員会まで。「キャンプのしおり」送ります、なるべく早く。

媒介者と前衛

われわれは、運動が閉鎖的にならないたのり外との窓口として、また

われわれにとって「前衛」とは...

— キャンパ運動の 問題点を とおして —

赤米を運動の
なかり根拠地
とするために、
キャンパ運動
を行なってい
る。

去年までの
キャンパを振
り返ってみる
と、われわれ
常駐者と呼ば
れる者の役割
は、キャンパ

— 自身が自主的にキャンパを組織し、
運営していくことを可能ならしめる
ための「媒介者」としての存在であ

った。しかし、この「媒介者」とい
う言葉があれまいで、その実は、「自
らを前衛として位置付けた者、ある
いは組織が、その根拠となる特定の
真理を大衆に目的意識としてふき込
み」という或る組織に横断する
大衆代行主義、前衛党の革命路線と
どこが違つかという点に常々ジレ
ンマを陥れてきた。

つまり、キャンパ中、キャンパー
はわれわれをまるで動物園の猿と見
るような、見守る立場から出な
ったり、逆にわれわれの方ほとい
うと、キャンパーを労働力としてのみ
とらへがらだったため、この二つの
立場に疎外関係も現出させてしまっ
たのではなからうか。また、キャ
ンパが行なわれるたびに、「百人委
メンバー」という有名無実の肩書き

を下けたキャンパーが、運動の裾野
に集まり、われわれ「常駐者」とい
うメンバーをまるで「前衛」とある
かのごとくに祭り上げる。百人委員
会の中に、ピラニッド型組織のよう
なものを現出させてしまっているの
ではなからうか。

はたしてわれわれは「前衛」なの
か？

前衛は不問か！

われわれは、法や秩序に守られた
日常生活を送る中でさまざまな既成
の価値観を植え付けられてしまっ
ている。そして、ある時自らが権力に
服従してはいたことに気付くことに
なると、今まで、日常とか条理とし
てとらえてきた事に対して懐疑的にな
ってくる。つまり、この日常とか条
理という意識を支えている価値観が

権力との従属的關係の中で作られた

ものに思えてくるわけである。とし

てすべての市民運動や新左翼運動も

このことに気付いた人たちの集団で

あり組織である。そしてこのような

運動においてもたいてい「前衛」は

存在する。否、その事実気付くこ

とが「前衛」となることである。し

かし、いわゆる「前衛」は、いつも

これらの集団や組織の中の指導的立

場にいる者にかざられてしまってい

る。「前衛」の存在はすべての組織

にとって不可欠なのか。「前衛」の

存在は、特殊な能力を持った人やそ

の集団に限定されてしまつものか。

……

まず、結論を言つてしまふと、正

確な意味での「前衛」の存在は不可

避であるが、決してこのような個人

や集団に限定されるものではない。

たとへば、現在われわれが「オカ

コミュニティ化」をめざして、あま

行なつてける運動を考へてみると、

資本主義社会の中で、村落共同体に

のしかかつている権力と闘ひながら

農民自身による自発的闘争を作らん

としてける。われわれは決して農民

に対して何かを指導したり、外部注

入的な革命路線を押しつけないさ

うとしてける訳ではない。ただ、わ

れわれが生活と闘争の中で気付いた

た権力の事実を主張してけるだけこ

ある。「前衛」といふのは、権力の

存在に気付き、自発的闘争を組織し

たものを指してけるにすぎない。闘

争する集団に不可欠な「前衛」はこ

のよつな「前衛」であるかぎり、「前

衛」の存在は必ずしも否定すべきこ

とではない。

われわれの前衛は

たしかにわれわれは、現在行なつ

てける四つの闘争方針においては、

「前衛」であるかもしれない。だが

社会を変革しようとする時、現在の

社会に存在する巨大な権力と闘わね

ばならぬのだが、弥蒙という物理

的条件と、現在われわれ一人々々が

立っている位相からとらへる権力

は一つの姿であり、そのためわれわ

れはどの部分でしか闘争を組み之不

れ。つまり、社会を変革するには、

弥蒙から打ちではなく、すべての人

々が、それぞれ自分の能力、それぞ

れの社会的価値に就いて、さまざま

な権力の姿を可視化させ、社会のい

たる所で「前衛」になる必要がある

し、またそれは可能である。

権力を可視化しきこ者は、そうではない者に対して、その権力の存在の事実を主張して行く立場に立たねばならぬ。この立場こそ「前衛」の立場である。また、この立場にすべての者が立つことで、自主的小集団の連帯による反権力の幅広共同戦線が可能となる。

春のキャンプは、この「前衛」的姿勢の必要性をキャンプパーに主張していくため、グループ毎にふるりのミニティファ・学習会を通して、キャンプパー自身によるそれぞれの自主運営・自主管理を行ない、それとこれと権力を可視化させる自主的集団の実験的に組織して行きたい。

(田中 茂)

土地共有券運動

24万円達成 (1.2ヵ月)

自分たちの運動
↓
斗2弥栄と郡共同体の土地共有券
及び借用地の買取り運動

昨年末で念願の土地代金支払いを完了しました。今年も、今借用している畑と、斗2弥栄の土地を買いとっていき、みんなの村をもっと広くしていきたいと思っています。今耕している田畑約1haは借用地なのです。春からは、10数人が常駐するし、山も広げしていきたいと思っています。1口2000円で何口でも受け付けていますので、あなたも共有券運動に参加して下さい。自分もやってるんだという気持ちになりまあすです。今年も早くも、寺陽(10)岩谷(10)、青位(10)の各氏から計3口の申込みがありました。目標は、今年30万円で行きます。

12/28~2/18 コミュン百人委員会会計報告

収入		支出	
くりこし金	17,074.-	切手代	5,350
定期カンパ	20,000.-	封筒代	400
(長洲・田子・羽熊・村松・大原・木)		紙代	14,200
普通カンパ	11,960.-	コピー紙代	600
(弘中・沢田・高田・寺陽・青位)		マジック等	250
定期購読料	5,600.-		
(藤原・新薬・草場・飯野・若尾・羽熊)			
(沢田・藤熊)			
パンフレット売上金	3,340.-		
合計	57,974	合計	20,800
		残金	37,174円です。
		担当	近藤 さん

きまぬはな 「こころ」の活動

「弥栄之郷」共同体の新しい試み

さる二月二日から六日まで、大阪の「こころ」会館において、弥栄之郷共同会を中心とする「こころ」百人委員会、運動の本年度の活動計画を話し合う合宿を開いた。

まず、昨年度の活動内容を詳細に総括検討したところ、次の諸点に關して、今年度は力点を置いて活動していくことが確認された。

- ① 百人委活動の実質化
- ② 広島に直販センターの設立
- ③ 弥栄村にある「こころ」の根拠地の建設
- ④ 弥栄之郷共同会の冬の活動としての工場部門
- ⑤ キャンプ活動の充実化と組織化

百人委活動の実質化

そもそも百人委は、常駐するとかいう形で共同体に直接生活を含めて関わっている人と、共同体には住んで

いないが共同体運動を支援し連帯しているというとする人の垣をなくすことを目的に創られたものであったが、現実には共同体運動が具体的になれ

ばなるほどその垣は高くなっていき、両者の意識の差は広がっていったといえる。その一つの理由として、去年までは弥栄村での運動以外に充分な運動を作り出せなかったこと、そのため個人的に共同体に関るしかなかったことがあげられる。しかし今年、広島での直販センターの設立にともない独立した直販活動の開始、広島にむこうな塾の発足、大阪にむこうな塾の充実化、とくにワークキャンプ。団体を別個に組織し、弥栄との関りを求めて日常的に活動を展開していくなかで、百人委の存在をさらに顕在化させていくことを考えている。

そのためには、事務機能をさらに充実させ、日常活動の模索、都市での仲間の組織化に力を入れて行かねばならない。そしてまた、弥栄の運

動が弥栄にとどまることなく、遠心的に多様な運動を展開するために弥栄から出て出ることを考えている。

2. 直販センターの設立

昨年の活動を「四つの闘争方針」に照らして振り返ってみると、「生きた伸びるための都市との関わり」——すなわち販活活動を通じての消費者組合の組織化という点において一番立ち遅れがみられたと総括できる。一言にいつて昨年は、とにかく「売ってしまつた」といつだけの自転車操業で、消費者の組織化に手を伸ばさなかったのがなかったというのが正直なところである。

今年は、まず販売部門を別個に組織するために広島に直販センターを設け、そこに販売専門の常駐者をおく。弥栄からは農作物をセンターに

届けるだけにとどめる。直販センターの常駐者は、「コミュニケーション・ヒロバ」の前号で紹介された、富山の農業開発技術者協会の販売活動を参考に、して契約販売（会員制）を中心に直販活動を行っていくことになった。これは本年度のわれわれの運動の成否を占う鍵であり、全力投球でうちまわすつもりである。この興味ある実験の進行過程は、今後本紙で紹介されていくであろう。

広島では同時に、直販センターを利用して「広島をむすな塾」を開校し、地域に根ざした運動の根拠地になるよう、またセンターの建物でそれ自身で経済的に自活していくようにする計画である。すなわち、「センター」が弥栄の出張所に隔ち入らないことが運動を成功させるための

前提であると考えるからである。

3. 弥栄村におけるオシノの根拠地

昨年は横谷部落24軒を主に対象とした農村のコミュニケーション化を目指してきたが、それにはおのづから生産量にも限界があり、今年から隣の小角部落にも運動を拡張していくことになった。今のところわれわれが小角部落に入手し得たのは、三反の土地と家・網屋の建物であるが、ここにわれわれの新しいメンバーの一家（夫婦と子供）の三人に住み込んでもらい、弥栄と郷共同体とのモシャフ的（共同村的）生産の共同と消費の個性性）なつながりのもとに、新しい共同体実験をはじめることになった。これは、われわれが肥大化した共同体（まだたった五人やけど）の体を自ら削して、日本的コミュニ

ン化の方法としてモシャフのコミュニティ村構想を建設するのが今のところ可能な形態であると考えられている。

小角部落に作る新しい根拠地は今後、オニの弥栄共同体になるであろう。またそのような目標した運動を新しい部落にまき起すことを期待している。

4. 共同体における工場の可能性

冬の出稼ぎは、今の農村ではあたりまえのこととなっている。そしてわれわれも去年は全員で出稼ぎをしたわけだが、農村の自立を考えた時それを良いわけがない。われわれが考える「自治・自衛」のコミュニティでは、農業だけで食っていけない部分を自分たちの作った農作物を原料とする食品加工工場の設立を考え

やってみることにしたのである。

具体的には、ミソ・ショウ油・トウモロコシ・漬物類などの簡単なものであろうが、これでも少しでも出稼ぎが少なくなれば、村に経済力をつけることができればと考えている。冬季における農村の潜在化した労力力を掘り出し、その労力が大資本に搾取され、都市に吸い取られるのではなく、自分たちの生きる力となり、自分たちの村の「自治と自衛」の力となるようにしたいと考えている。案外農村革命のヒントはこんなところにあるのかもしれない。

5. キャンプ活動の実現と組織化

従来弥栄を行ってきたワーク・キャンプは、弥栄之郷共同体で呼びかけたり、百人委の方で準備してきたりしたが、この春のキャンプから

は一つの別個の「弥栄ワーク・キャンプ」という団体を発足させ、そのキャンプ団体の活動として行なっていくようにもっていくことになった。今までのワーク・キャンプの問題点については別のところを別の人が論じているのでここでは述べないが、そのことによって共同体と明確な関係の自立した別個の運動体が成長することを期しているのである。

ただいま弥栄は15人、とそして無数の見えない君たち共同体志願者。今年も弥栄は波乱万丈、雨が降るか槍が降るか、ヘビが出るかジャが出るか、天変地変のズッコケムード。太陽が黄色くなるまで徹底的にヤロ一ゼ。

